

不登校に関する調査研究協力者会議


文化学習協同ネットワークの 学校との連携について

2015.4.21

KYODO NET

特定非営利活動法人文化学習協同ネットワーク

高橋薫



特定非営利活動法人(認定NPO) 文化学習協同ネットワークのご紹介

子ども・若者の学びの場づくり(成長・
発達保障)と誰もが自立できる切れ目
のない支援システムづくりを目指す

若者支援事業の展開
2005-若者自立塾を開設
2007-三鷹サポステオープン
相模原サポステ(2009)
練馬サポステ(2013)
2008-生保世帯の子ども若者
の支援事業を開始

2005 **IV**

NPO法人としての若者支援
1999-特定非営利活動法人として再出発
2004-コミュニティ・ペーカリーオープン


1999 **III**

不登校の居場所づくり
1993-フリースペースを開設
1997-活動拠点である新学舎完成

1993 **II**

父母運営の塾づくり運動
1974-中学生のための「勉強会」を三鷹市で開設
1985-父母運営の塾づくり運動に参加

1974 **I**



地域若者サポートステーションにおける 取り組み

○地域若者サポートステーションとは

就労に向けて意欲があり、仕事に就いておらず、家事も通学もしていない15~39歳の若者が対象。在学生は対象外。国が措置する事項として相談窓口の設置、地方自治体が措置する事項として、キャリア開発プログラムの実施、臨床心理士の配置、講演会の実施、訪問支援などの実施がある。

また、地域若者サポートステーションでは、学校との間で中退者情報を共有するなどの連携を行いながら、学校中退者の支援を行っている。その他の学校との必要な連携については、地域若者サポートステーションとは別に文化学習協同ネットワークが団体独自事業や自治体事業として行っている。

※平成26年度までは、学校に出向いて行う生徒や保護者への説明会や校長会等への働きかけ等を内容とする学校連携推進事業を地域若者サポートステーションで行っていたが、今年度から廃止された。

○支援の流れ



文化学習協同ネットワークと学校との連携の実際① 事業の周知

○生徒向け

- ・キャリア教育の授業を実施
- ・文化祭において支援事業の内容を紹介

○教員向け

- ・職員会議において、教員全員に対して事業説明を実施
- ・年度の初めに校長先生以下、各部署や新任の教員に来所いただき、見学・説明会を実施



文化学習協同ネットワークと学校との連携の実際② 生徒についての情報共有

先生方の声

支援員には教員に見せるのとはまた別の姿を見せる。生徒の新たな面を見て次の動きを考える上で、非常に大きな意味を持っている。

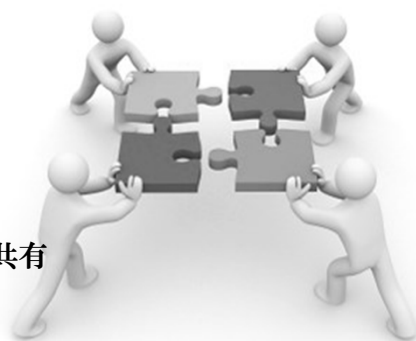
○相談室を定期的に開設

○校内の居場所

・気軽なおしゃべりの場を実施

○担任、養護教諭、相談室教員
などとのカンファレンスを実施

月1回程度、毎回5～10名の情報共有



文化学習協同ネットワークと学校との連携の実際③ インターンシップ

○インターンシッププログラムを実施

①グループワーク

(グルーピングから希望する企業との交渉まで)

②現場での実習・振り返り

③作品化・発表

⇒最終年次の生徒8人が参加し、全員バイト開始

○当団体の「風のすみか」を活用
した職場実習プログラムを実施



文化学習協同ネットワークからの 学校との連携についてのポイント

○切れ目のない支援システム

当団体が受託している自治体事業では、教育支援センターがすべての中学校を訪問しており、そこに同行させていただいた事例がある。これにより、既に進路形成にリスク抱えている児童を把握し、義務教育年齢のうちに支援につなげることができる。

⇒個人情報の問題をどうクリアするかが課題

○ひとりひとりの欲求や課題に対応できる柔軟なカリキュラム

固定的なカリキュラム意外に、「こうしなければならない」「こうあるべき」から「こうしたい」への転換が丁寧にできる柔軟なカリキュラムが必要。

⇒昨年まで、不登校経験者が多い都立定時制高校で実施

○「次」の見通しがあり、

何度でもやり直しができる場やプログラムの提供

先輩が悩み、葛藤しながら、社会へ進出しているのが見えること(モデリング)、ともに一步を踏み出していく仲間づくりができることが重要。

⇒当団体が不登校支援の延長線上で確立してきた独自研修プログラム

END

KYODO NET

